



築地・高輪教会

「日々の暮らしから東京へ⑤」

三代将軍家光によって 横して建てられ、第2次世界大戦の空襲でも近くに聖路加国際病院があつたため

1854年、開国を迫る 戦火をまぬがれる。このプロテスタント系の病院は山居留することになる。こうしてキリスト教が再び日本の地で宣教の根を下ろす。

1874年(明治7年)、パリ外国宣教会が東京での宣教を始める。築地に新聖堂が建てられ、築地教会は東京で最初の教会である。

関東大震災で焼けるが、昭和2年、古代ギリシャのドーリア式神殿を忠実に

に建て替えられ

た高輪教会はこれまでとはがらりと変わり、現在のモダンな外観を持つものとなった。

何よりもこの教会が有名なのは、すぐ近くに、1623年に100人以上が処刑された地があり、高輪教会にこの「江戸の大殉教」の記念碑などがあるからである。モダンな高い塔を持つ現教会の地下には、1623年の大殉教の絵や踏み絵などが展示してある。

今回、浅草、築地、高輪の三つの教会を訪れた。江戸時代の最後の殉教者ともいわれるイタリア人のシドッチ神父が長く幽閉され、新井白石の取り調べを受けたギリシタン屋敷跡などを見ながら、改めて「殉教」とは何だろうかと考えさせられた。

それは単なる過去の歴史ではなく、現代を生きる我々一人々に、信仰とは何かということを考えなければならない。

高輪教会地下の資料室



高輪教会にある「江戸の殉教者顕彰碑」



古代の風格が漂う築地教会



高輪教会の高い塔